2024年ケセランぱさらんニュース　初春

百年芸能祭とは？
さらに2023年の記録も
QRのサイト↓でご覧になれます。

お知らせ：2022年実施した東日本大震災の被災物に呼応するワークショップが2月に本になって出版されます。私たちの文や報告も掲載されてます。
タイトル「被災物　モノ語りは増殖する』かたばみ書房
※添付写真は、現在編集中のイメージです
◆編者：　姜信子
◆書き手・語り手
　山内宏泰（リアス・アーク美術館 館長）
　山内明美（宮城教育大教員）
　志賀理恵子（写真家）
　東琢磨（評論家）
　川島秀一（民俗学者・漁師）
　被災物「モノ」語り ワークショップ”に参加された皆さん
◆装丁：納谷衣美

被災物ワークショップの記録映像などは↓QRでご覧になれます。

今年もあちらでもこちらでも！

百年後まで百年芸能祭は続く

祈りはつづくのです　能登にも

2023年人々の命があまり軽じられる世界を目の当たりにして怒り、悲しみをどうしてよいかわからない気持ちに苛まれました。そんな大晦日、百年芸能祭の友人たちが融通念仏でガザで失われた命を鎮魂しようと企画しました。オンラインでも繋ぎ、参加者３０名ほどの人々が、それぞれの言葉で音楽でノイズでボイスで命を祝うように延々とオンラインの音のズレと共にカオスなアバンギャルドなバラバラな祈りの渦がぐるぐると….祈りはつづくのです。

2024年が始まりました。文を書くことができたのは、１週間が過ぎてから。歌を歌うことも、楽器を弾くこともやっと始めました。ふっと友人に後押しされるように、リハーサルのために弾き始めると、少しだけ軽やかになりました。
元日１６時8分頃能登半島の地震。家族が巻き込まれました。息子一家が幼い子供を連れて、パートナーと共にお正月に帰省していた珠洲市。直後に連絡の一報が入って、全員無事を確認したものの、停電のため現地ではどう報道されているのか全くわからず、情報が欲しいとテレビの動画や写真を送りました。「大津波やから逃げるんやで」と、伝えて。ただ電源を消耗するので、メッセージ送付をやめその後の連絡を待ちました。夜になって避難所にいて暖は取れるとの連絡が義母のdocomo携帯から来ました。通信はほぼできず、連絡は一日二度ほどしか可能ではない状態となりました。

大阪へいつ帰れるかわからない、私たちが迎えに行こう、とりあえず支援物資になるものを珠洲の家に届けられるように買い集め、我が家の備蓄や簡易的なトイレのためのシートやカセットガスや水や・・・と準備を始めました。

2日は身動きが取れず、3日になってなんとか珠洲市から車で金沢まで送ってもらうことにチャレンジするも、通れる道が限られている上、大渋滞でガソリンが持たない危険があるためやむを得ず避難所へ引き返しとなりました。翌日4日、この日も朝からガソリンを満タンにして（スタンドに並ぶ渋滞か道路渋滞かわからないくらいの停滞の中）金沢行きの再チャレンジを試みてくれました。この日やっと自衛隊の姿を見たと言っていました。

2024年ケセランぱさらんニュース　初春

2023年5月4日連休　去年の地震前の見附島

珠洲から大阪へ

午前中にとりあえず出るというテキストメッセージがきて、連絡は途絶え、次の連絡は14時ごろ穴水を超えたところまで来たとの連絡。それを受けて、家から支援物資を車に積み金沢へ出発しました。「金沢で合流しよう。早く着いたら、スーパー銭湯のどこかにいてね、」と伝えて出発。　18時半頃、到着の連絡が来てホッとしました。私たちは20時すぎの到着予定。３日間風呂も歯磨きもままならなかった彼らにゆっくりするように伝えて、先を急ぎました。他県から支援の警察が８０キロ制限のペースで連帯を組んで走る横を抜いていき、無事に20時すぎ到着しました。
頭に土壁の砂を被り、小さい傷も負った彼ら＝被災者になった家族みんなは、本当に久しぶりのお風呂と食事で一息つきました。

しかし珠洲からの道のりの厳しさは、命懸けだったと聞きました。地道を知っているので、迂回路の農道を通行するけれど、崖のように崩れた道路端を避けて、隆起して亀裂が入ったところに落ちないようにそっと通行。通れる道路は、度重なる地震で毎日状況が変わる。被害が大きいところは限られた迂回路で大渋滞の中、７時間ほどもかかって金沢まで辿り着きました。通常では３時間もあればつく距離です。それをまた、実家へご両親は帰ります。夜は危険で通行できないので、一晩、一泊だけ、わずかな休息の何時間かを過ごし、夜があけたら、珠洲へ戻っていかれました。あの、危険な道を再び通って。
元日以降連続する地震を体験してきた息子たちは、帰ってから横になっても、ずっと揺れてる感じかする。と言っていました。休まることのない恐怖が身体に刻み込まれています。家は倒壊は免れていますが、内部は損傷がひどく、取り出せなかったものも多くあります。向かいのお宅は倒壊しています。子供達も、持ってきたおもちゃや日用品を失いました。阪神大震災の時を思い出しました。仕事柄阪神間にいらっしゃった顧客の皆さんのピアノの状態を確認するのに連絡を取った時、屋根が落ちて取り出せないピアノがあり、家を解体することが決まった時、あまり使われていなかったピアノも一緒に撤去されることになりました。そのピアノと共にあった思い出も、家にあったささやかな物たちへの思い出も、全て無くすという喪失感は、言葉では表せません。もう大きくなっていた子供さんが、とても寂しがっていたことも。

今回も津波はありましたが、多くは倒壊と火事という阪神大震災と似た被害が報告されています。ただ、地勢的な条件のせいでアクセスが悪く、救助も支援も遅れています。通信インフラも同じです。阪神大震災から30年が経とうとしているのに、ドローンや空飛ぶ車はどうしたのでしょう。技術は戦争のためにだけ使われているのでしょうか？自衛隊は災害救助に特化して、災害から自衛して欲しい。こんなに災害の多い国で人の命にとって自然こそが脅威です。

まだまだ避難所で不自由な暮らしを強いられている多くの方々、疲労や感染症などに気をつけて、環境がより良くなりますよう。祈り続けます。　皆様のご支援もよろしくお願いします。

2024年ケセランぱさらんニュース　初春

2023年の百年芸能祭を振り返る

2023年は関東大震災からちょうど100年の年になりました。この年は旅先でも、大阪でも各地で芸能祭を実施して、鎮魂と祈り、歌い踊り続けました。でも、100年では終わりません。この先100年を祈り続けるのです。そう、歌って踊って！！主なものを振り返ります（抜粋）

バンナ公園マラリア犠牲者慰霊碑

八重山農林高校　素晴らしい踊り

いくのパーク　大団円　　写真　山下一夫さん

○2023年3月10日　東京　関東大震災フィールドワーク　検見川～横網公園～荒川河川敷

関東大震災から千葉県検見川に逃れてきた３人の地方出身者（秋田県、三重県、沖縄県）が、虐殺された事件を長年研究している島袋和幸さんによる、現場フィールドワークそして、その場で殺された命を鎮魂する鎮魂チンドンを実施。また、横網公園、荒川四つ木橋も「ほうせんか」の伊崎さんに案内してもらう。標準語を話さず殺された人々のために、民謡を歌う

○6月23日　沖縄　石垣市大浜公民館　慰霊の日百年芸能祭

去年3月に自衛隊石垣基地が開設された。ずっと反対運動をしてきたオバーの会の山里節子さんの呼びかけで、全国から芸能で、歌や踊りで、この島の平和を祈ろうと多くの人が駆けつけた。もちろん歌って踊った！

○9月3日　　大阪いくのパーク　百年大芸能祭

関東大震災、100年目の9月3日の大芸能祭。関西実行委員会として準備を続けてきたこの大芸能祭は、大盛況！
午前中より、演劇、ダンス、そして語りに歌、ゲストの中川五郎さん、アイヌの祈りの踊りうぽぽで踊り終わるまで一日中、ぎゅうぎゅうの詰めの中、参加の皆様と踊り、歌い、祈り、鎮魂する時間。すごいカオスな祀りとなりました。詳しくは百年芸能祭HPのQRからご覧になれます。

○12月2日、3日　熊本　相思社　百年芸能祭　水俣

水俣の漁民闘争からやっぱり今年は百年。近代社会によって命を奪われた人々は、水俣にも！　福島・沖縄・水俣そしてどこにでもいる。ということで、水俣でも百年芸能祭。街をチンドンで練りるき、講演や鎮魂チンドン各所、芸能祭は水俣ハイヤ節に始まり駆けつけた多くの芸能者によって、歌い踊りうねりうねり、再びカオスな宴となりました、

ゲストの中川五郎さんは、
関東大震災３部作を熱唱

水俣　相思社芸能祭

水俣親水公園に現れたもののけ

2024年ケセランぱさらんニュース　初春

伊達市　りょうぜん里山がっこうで

南相馬市さゆり幼稚園でピアノばらばらショー

南相馬　農家民宿　いちばん星で

いわき市下神白団地の皆さんとチンドン！

久しぶりの福島ツアー

2023年10月19日～22日

コロナ蔓延で2019年以来となる、福島県ツアーに行ってきました。旧知の皆さんにお会いすることが第1の目的ですが、今回は特に、今浜通りがどうなっているのか？原発避難地域はどうなのか？ということをしっかり見て、感じてこようと思ったツアーでした。

<浜通りはソーラーだらけ>

浜通りは、南相馬、双葉地区、浪江あたりまで海岸線は、もう住むことはできません。津波の後に現れたのは、ロボットテストフィールドというドローンやロボットの操作実験などをする施設で。南相馬と浪江を結んで飛ばしたりする先進施設です。そして、走っても走っても見えるソーラーシステムが建設されていました。これが復興の姿なのか？と地元の方々にとって有益なもになるのだろうか？と疑問に感じます。

＜ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館＞

楢葉町の宝鏡寺にこの伝言館はあります。原発誘致の時から反対運動をしていた住職の早川さんによって作られた資料館です。いかに誘致の時に原発誘致の賛否で町の人々を分断して行ったかがわかります。ここで汚染水の原告となっている丹治さんに説明をお聞きしました。丹治さんは「大熊町を見ておいで。」と教えてくれました。大熊町に行くと、周りはまだ帰還困難地域である中にぽこっと現れた小さい洒落た街。必要なものは最低限あり、住宅と先進的な学校がありました。２７名の子どもが通うそうです。街は、東電へ働きに行く人々の家が中心で復興住宅もありますが、大熊町の多くがまだ帰還困難な場所です。不思議な場所になっていました。

＜おれたちの伝承館＞「おれ」というのは男性の一人称ではなく、南相馬小高地区、この辺の人たちが男女関係なく使う一人称です。ここはアートで原発事故を見つめる美術館です、さまざまな形で苦しみが語られます。

＜いわき市　下神白団地　交流秋祭り＞

住民の皆さんと、練り歩くチンドンは、いつも楽しいですが、ノリノリの扮装で参加してくださった皆さんありがとうございます！！！いつもながらに、歌って踊って楽しい時間を皆さんとご一緒できて感謝です。